

6/17
朝日

米0.75%利上げ通常の3倍

インフレ抑制優先

米連邦準備制度理事会(FRB)は15日、東京公開市場操作委員会(FOMC)を開き、通常の3倍といふ0.75%の利上げを決めた。1994年1月以来27年半ぶりの上げだ。事前に示した利上げペースを大きく超えた。急激な金融引き締めは景気後退を招きかねない懸念が強まると、パウエル氏は、直前の10日に発表された5月の米消費者物価指数(CPI)の伸びが81年12月以来約40年ぶりの高水準を記録したことに触れ、次回7月のFOMCでも0.5~1.75%となる。FRBは今後も金利上昇に警戒する。パウエル議長は「明らかに通貨ではない上げ幅の上げ幅で、事前に示した利上げペースを大きく超えていた」と述べ、「現状の金利水準を維持する」ことを示した。

FRBは15日、東京公開市場操作委員会(FOMC)を開き、通常の3倍といふ0.75%の利上げを決めた。1994年1月以来27年半ぶりの上げだ。事前に示した利上げペースを大きく超えた。急激な金融引き締めは景気後退を招きかねない懸念が強まると、パウエル氏は、直前の10日に発表された5月の米消

費物価指数(CPI)の伸びが81年12月以来約40年ぶりの高水準を記録したことに触れ、次回7月のFOMCでも0.5~1.75%となる。FRBは今後も金利上昇に警戒する。パウエル議長は「明らかに通貨ではない上げ幅の上げ幅で、事前に示した利上げペースを大きく超えていた」と述べ、「現状の金利水準を維持する」ことを示した。

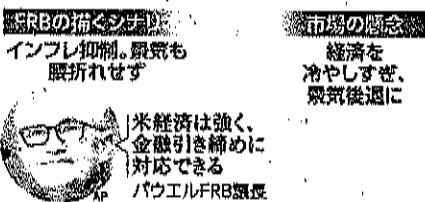
レーティングの抑制を緩和せらる様だ。▼2面=必死のFOMC

日本、9面=急ぐ主要国

米国はいま、
分岐点にいる
農業後退するかむかかの

3月 FRBがゼロ金利を解除し、利上げを開始
5月 消費者物価指数(CPI)でインフレ再加速が鮮明に
6月 FRBが0.75%の大額利上げ。
量的引き締めも開始

これからどうなる?



を優先すべきだと姿勢を示した。

FRBは今月、保有資産を圧縮する量的引き締めを開始。FRBが購入した米国債や住宅ローン担保証券(MBS)の満期が来ても再投資しないため、市場からお金を取り上げる効果がある。

バイデン政権は秋の中間選挙に向けてインフレ遏制を最優先課題に掲げる。インフレ抑制に失敗すればFRBも政治的な批判にさらされる可能性があり、それが事態も利上げを急いで断然影響してくる恐れがある。

16日にはペイペイ銀のペ

・5%幅度引き上げでマイナス0.25%とした。スイスの利上げは約15年ぶりだ。

英中銀のイングランド銀行も同日、政策金利を0.25%引き上げて1.25%にした。5年合意の利上げ

(インフレ)=標準値、ロイヤル

・100%=標準値)

となる。主要中銀の相次ぐ利上げで農業減退の懸念が強まり、欧州の主要な株価指標は一時、2~3%急落した。

あつとも、インフレの抑制対応そのため政策金利を0

